

令和3年産りんご着果状況及び黒星病発生状況調査結果

1 調査概要

(1) 調査の目的

令和3年産りんごの着果状況及び黒星病の発生状況を調査し、高品質りんご生産のための指導に活用する。

(2) 調査月日 令和3年7月13日(火)～14日(水)

(3) 調査地点 ふじ72地点、ジョナゴールド71地点、つがる71地点、王林72地点、トキ66地点

(4) 調査機関

全農県本部、(公財)県りんご協会、(地独)県産業技術センターりんご研究所、県

2 調査結果

(1) 着果状況

県全体の着果率は、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率を上回っている。なお、一部園地でつがるにサビ果がみられた。

(2) 黒星病の発生状況

黒星病の被害果はほとんどなかった。

<りんご着果状況>

(単位：%)

品 種	着果率			標準着果率
	本年	平年	前年	
ふ じ	33.4	31.0	37.0	25.0
ジョナゴールド	34.9	32.5	38.6	28.6
つがる	37.6	35.6	42.0	28.6
王 林	36.5	34.7	41.0	25.0
ト キ (参考)	32.9	—	38.0	25.0

注) 平年値：平成3年～令和2年までの30か年の平均
標準着果率：県が基準とする適正な着果程度

<障害果及び黒星病発生状況>

(単位：%)

品 種	障害果率		健全果率			標準着果率
		うち黒星病	本年	平年	前年	
ふ じ	1.2	0.0	32.3	31.4	36.8	25.0
ジョナゴールド	1.4	0.0	33.5	32.8	38.5	28.6
つがる	6.6	0.0	31.0	33.0	38.5	28.6
王 林	1.3	0.0	35.2	35.1	40.0	25.0
ト キ (参考)	0.9	0.0	32.0	—	36.1	25.0

注) 障害果：黒星病被害果、サビ果等
平年値：平成14年～令和2年までの19か年平均

3 今後の対策

(1) 着果状況を点検した上で、再度、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

(2) 標準着果量を確保できない場合は、樹勢調節のために肥大や果形の悪い果実でも残すようにする。